

アレクセイ・ソコロフさんが解放されました！



2011年7月27日、クラスノヤルスクの裁判所は、人権派弁護士のアレクセイ・ソコロフさんの仮釈放を決定しました。

ソコロフさんは2009年5月に逮捕され、その1年後に窃盗と強盗の嫌疑をかけられ

ましたが、多くの人は彼が囚人の人権を擁護していたため、罪を捏造されたと信じていました。法廷審問直後に、彼は流刑地を離れることを許され、今は故郷のエカテリンブルグで家族と暮らしています。過去2回、ソコロフさんは釈放願を提出していましたが、たいした根拠もなく却下されていました。

背景：人権派弁護士のアレクセイ・ソコロフさんは、エカテリンブルグの人権擁護組織 Provovaia Osnova(法的根拠)の代表で創始者でしたが、2009年5月13日に拘束され、後日、窃盗の嫌疑をかけられました。7月には一旦釈放されましたが、別件の強盗嫌疑をかけられ、その日のうちに再拘束されました。それ以降、判決もないまま拘束がつづき、5月14日の強盗容疑で5年の実刑がでましたが、控訴するとすぐに3年に減刑されました。

ソコロフさんはアムネスティその他の人権団体に対して、2年間にわたる支援に謝意を伝え、妻子のもとに帰ることができて嬉しいと語ってくれました。

赤道ギニアで良心の囚人が釈放されました！

6月7日、首都マラボのブラック・ビーチ刑務所から5人の元PPGE(赤道ギニア進歩党)メンバーで良心の囚人のエミリアーノ・ペドロ・エソノ・ミッチャさん、クルズ・オビアング・エベバーレさん、グメルシンド・ラミレス・ファウスチーノさん、ファン・エコモ・ドングさん、ジェラルド・アンギューさんが恩赦で釈放されました。

6月5日、オビアン・ングマ大統領の69歳の誕生日に、22人の囚人が恩赦で釈放されました。釈放前、恩赦の対象になった囚人たちは、大統領の慈悲に感謝する書類に署名することを求められ、次に同様の事件を起こした場合には、恩赦を取り消して収監する、と告げられました。

恩赦になった人びとの中に、弾圧をうけて活動停止処分をうけている赤道ギニア進歩党(PPGE)の5人が含まれていました。彼らはPPGEとの関わりと武器の保有という不当な理由で、2008年3月に逮捕状もないまま拘束され、同年6月には、不公正な裁判によって6年の実刑判決をうけました。アムネスティは彼らを、結社および表現の自由を平和的に実行しただけの良心の囚人と考え、釈放を求めて活動してきました。

フロレンチオ・エラ・ビバングさんとアンティモ・アベソさんもまた、恩赦で釈放されました。アベソさんは、移送されたエビナヨング刑務所から6月13日に釈放されました。

二人は難民としてカメルーンにいました。2005年6月、二人とフェリペ・エソノさんの3人は、ナイジェリアのベニン市に向かって同国を旅行中に、赤道ギニアの公安関係者によって拉致され、マラボのブラック・ビーチ刑務所の独房に数年にわたって隔離拘禁されていました。2005年9月、軍事法廷で政権転覆の嫌疑で欠席裁判にかけられ、20年の実刑をうけました。首都のマラボの刑務所に3人が収監されていることはわかっているにもかかわらず、政府は3人が国内にはいないと否定していました。

アムネスティは、3人に対する拉致、不公正な裁判および拷問を懸念し、政府に対して、3人の拘禁を認め、拉致事件や拷問を調査するとともに、囚人たちが治療を受け、家族や弁護士に接見できるように求めていました。

2004年4月から、政権転覆の嫌疑で15人の政治犯も長期の実刑をうけていましたが、彼らも恩赦を受けました。

シャムカーン・アジェフさんが治療を受けました！

ロシア連邦、チェチェン共和国、チェルモコソボのFBU IK-2という刑務所に収監中のシャムカーン・ドビッチ・アジェフさん(1979生まれ)は脊髄カリエスを患っており、緊急手術を

うけるためにクラスノダール沿海州のウストラビンスクの刑務所病院に移送されました。

アムネスティの要請によって、アジエフさんは囚人用の特別移送で入院しました。移送後すぐに医師の診断を受けたところ、肺結核も患っていることがわかりました。家族は、アジエフさんが適切な治療をうけられるよう望んでいます。

2011年4月、ロシアの人権NGOメモリアルは、刑務所のカルテでアジエフさんが重篤な脊髄カリエスに罹っており、緊急手術が必要であることの情報入手しました。

4月29日、チェチェン拘禁施設監視公共委員会は拘禁施設を訪れ、アジエフさんと話し、カルテを調べました。そして「硬膜鞘圧迫を伴う下位腰椎脊髄カリエス、恒常的腰痛、両側性根性症候群」に罹っていることを確認しました。アジエフさんは3か月以上もベッドに寝たきりになっており、両脚を動かすこともできず、激しい腰痛に苦しんでいました。アジエフさんは、この刑務所で1年以上きちんとした治療を受けさせてもらえずにいたのです。

アジエフさんは委員会に対して、アストラカーン地域の刑務所病院に移送されて手術をうけることになっていると伝えました。委員会はこの情報を刑務所署長に確認し、医師の付添を含む特別な移送手段をとる必要があると判断し、要請しました。当初5月予定だった移送が延期され、最近やっと実現しました。

アジエフさんの家族や人権NGOメモリアルの人びとは、アムネスティに対してとても感謝しています。アムネスティの支援がなければ、アジエフさんは刑務所病院に移送されることはなかったでしょう。

アムネスティはさらにアジエフさんについて監視を続け、必要な措置をとるつもりです。支援して下さった皆様に御礼を申し上げます。

ロシア検察庁から手紙が届きました！

チェチェンのイスラム・ウマルパシャエフさんに関する緊急行動(UAナンバー:149/10)について、UA会員からのアピールに対し、ロシア連邦最高検察庁北カフカス連邦管区局

から回答の手紙が届きました。

ウマルパシャエフさんは、2009年12月11日にチェチェンのグロズヌイにある自宅から捜査当局者により理由も告げられずに連れ去られ、約4か月間隔離拘禁された後、2010年4月2日に釈放されました。彼は拘禁中、地下室に繋がれ、なぐられるなどの虐待を受けましたが、当局はそれを認めず、また彼が起訴されることもありませんでした。アムネスティは緊急行動を発行し、彼の逮捕と拘禁について公平な調査を行うことを要請していました。

当局は、2011年5月6日付の手紙で、ウマルパシャエフさんは2009年12月28日付で窃盗の容疑により起訴されていると回答しています。また、この事件は北カフカス連邦管区ロシア連邦捜査委員会本部捜査部の予審官が手続を進めており、裁判を行うかどうか、また彼と家族の安全措置を取るべきかどうかについて予審官が今後判断をするとも回答されています。

2011年5月23日発行のUA更新情報では、2011年1月に捜査権限がチェチェンの外に移されてから、彼を不法に拘禁し虐待した捜査当局者を特定するなど、捜査に進展が見られていますが、彼のために動いている調査チームが脅迫をうけるなどの被害が続いていると報告されています。

この件に関してアピールを送ってくださった皆様に感謝いたします。引き続きアピールを送ってくださいますようお願いいたします。

緊急行動に対して各国からの回答がございましたら、UAセンターまでお送りいただけますと幸いです。またアップデート情報とともに一部ご紹介させていただきたいと思いますが、言語によっては翻訳ができないこともございますので、予めご了承くださいようお願いいたします。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL：03-3518-6777 FAX：03-3518-6778

E-mail：uacenter@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円 郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル
日本